

水生昆虫談話会第400回例会での研究発表報告

水生昆虫談話会第400回例会が9月12-13日に福島県大玉村の「ふくしま県民の森フォレストパークあだたら」にて開催されました。談話会は関東地方の水生昆虫研究者を中心に、毎月1回例会を開催している熱心な団体で、何と今回は400回の記念例会でした（例会を400回行うには毎月1回の開催で33年以上が必要）。昨年、談話会の幹事の方から「400回の記念例会を福島で開催できないか」と打診され、お引き受けした次第です。福島大学のメンバー5名を例会幹事として、関東地方を中心に全部で23名が参加しました（関東地方以外では宮城、京都、愛知、長野からの参加者がありました）。塘研究室から参加した4名の学生はすべて磐梯朝日遷移プロジェクトと関わった研究を実施しており、このうち3名が研究成果を発表しました。

12日の13:30からビジターセンター内の「レクチャーホール」にて、塘研究室の3名の発表：大平 創君（D2）「福島県裏磐梯地域の河川における底生動物相について」、難波元生君（M1）「福島県裏磐梯地域に生息するフロリダマミズヨコエビの食性解析」、林宏至朗君（B4）「止水性ヒメシロカゲロウ属の一種(カゲロウ目:ヒメシロカゲロウ科)の遺伝的多様性」で例会（研究発表）が始まり、その後、カゲロウ類の交尾器の3D画像、他の水生昆虫に便乗するユスリカ類の分布域、阿武隈川のオオシロカゲロウの性比の偏り、謎のムラサキトビケラ類など、興味深い研究成果4題が発表されました。研究発表終了後、トレーラーサイトに移動し（例会幹事以外は常設トレーラーに宿泊しました）、夕食（BBQ）の準備を始め、18:00過ぎから懇親会を兼ねた夕食が始まりました。フォレストパークあだたらは「森との共生」がコンセプトなため、野生動物に配慮して20:00からは二次会会場のコテージに移動する予定でしたが、議論が盛り上がり過ぎてそのまま22:00（消灯時間）まで野外での懇親会が続きました（降雨によってお開きとなりました）。翌13日は8:00からの朝食後に集合写真を撮って解散となりましたが、何人かの参加者は施設内にある人工池や細流にて研究用サンプルの採集をされていました（施設内の生き物の採集は禁止ですが、今回は特別に許可を頂きました）。

福島大学の難波君と林君は水生昆虫の専門家の前での発表は初めてで、結構緊張したと思いますが、いろいろと有益なコメントも頂きましたし、顔を覚えて頂く良い機会になったと思います。



レクチャーホールでの研究発表の様子



トレーラーサイトでのBBQ用火熾しの様子